



2026 DELKUI high school 報告書

1 事業目的

地域で活躍する多様な人財との対話を通じて、高校生非認知能力の育成を図るとともに、地域人財データベース「DELKUI」の構築を進める。また、高校生自身が企画運営やインタビュー、情報整理を担うことで、主体性・協働性・探究力を育み、次世代の地域リーダー育成につなげる。

2 実施概要

日 時： 令和8年7月29日（水）・30日（木）

時 間： 13:00～17:00

会 場： 市民ホール（銚子市役所内）

参加者： 高校生 17名 地域人財 21名

主 催： 一般財団法人銚子円卓会議

後 援： 銚子市・銚子市教育委員会

【DAY1】7月29日（水） 高校生×地域人財によるキャリア対話

タイムスケジュール

時間	内容
13:00～13:40	開会・趣旨説明・アイスブレイク
13:40～14:10	キャリア対話 ①
14:10～14:20	移動・休憩
14:20～14:50	キャリア対話②
14:50～15:00	移動・休憩
15:00～15:30	キャリア対話③
15:30～16:10	移動・休憩
16:10～17:00	共有・ふり振り返り

グループ	A	B	C	D	E	F	G
13:40-14:10	銚子警察署 警務課 係長 鳥丸 宏幸	銚子市議会議員 加瀬 庫蔵	銚子市議会議員 高根 一芳	千葉県議会議員 宮川 太	千葉科学大学 教授 大貫 龍哉	銚子市議会議員 釜谷 藤男	銚子市議会議員 石上 友寛
14:20-14:50	銚子市議会議員 岩井 文男	千葉県議会議員 信田 光保	銚子市議会議員 笠原 幸子	丸徳商事・銚子葡萄酒醸造所 代表取締役社長 坐古 拓也	銚子市議会議員 池田 健一	銚子市議会議員 地下 誠幸	銚子市議会議員 宮崎 光子
15:00-15:30	銚子市長 越川 信一	犬吠埼温泉協議会 会長 梅津 佳弘	銚子円卓会議 代表理事 松岡 明夫	銚子市議会議員 広野 恭代	銚子市 社会教育委員長 岡田 幸太郎	(株)浜鈴総芸 社長 鈴木 浩之	銚子経済新聞 代表 飯田 訓文



13:40-14:10 対話 1

14:20-14:50 対話 2

15:00-15:30 対話 3

*それぞれの対話タイム左下より上へ、上から右下へ 順に A-G

3. インタビュー協力者アンケートより 16 名回答／21 名

<高校生へのメッセージ>

みんなでありたい未来を考えよう

今回も前向きで素晴らしい皆さんとお話しできて有意義でした。共に頑張りましょう！

今日は、堂々とした高校生からのインタビューを受け、私自身、初心を思い出す良い経験となりました。楽しい時間が過ごせ、来て良かったと思いました。ありがとうございました。

いつの時代も、新しい未来を切り拓いてきたのは若い世代のエネルギーです。参加された高校生の輝かしい未来に、幸多からんことを願っています。

先日はインタビューをしていただき、ありがとうございました。皆さんが真剣な眼差しで、私の仕事や思いについて質問をしてくれる姿に、私自身も初心を思い出し、たくさんの刺激をもらいました。

慣れない大人へのインタビューで緊張したかもしれませんが、地域の「人」や「仕事」に興味を持ち、自分たちの言葉で何かを引き出そうとする姿勢がとても頼もしかったです。

「デルクイ」という名前には、失敗を恐れずにどんどん飛び出してほしいという願いが込められていると聞いています。これから先、進路に迷ったり壁にぶつかったりすることもあるかもしれませんが、今回のように自ら一歩を踏み出した皆さんなら、きっと自分らしい道を切り拓いていけるはずです。

皆さんのこれからの成長と活躍を、心から応援しています。自分を信じて、これからも頑張ってください！

質問を受けている中で自分自身に対する思わぬ気づきを頂きました。ありがとうございました。

質問の中に趣味は何ですか？とありました。年齢を重ねていくと仕事の責任も増え、趣味の時間が減りがちで

すが、時間を見つける事も大事だと思います。

私も、もっと趣味や交流を大事にしたいと思います。

前向きな姿勢を感じました。いろいろな事にチャレンジして、失敗をおそれず進んでください。今日は楽しかったです。

夏休みなのに、真剣に大人の話に耳を傾け、本当に素晴らしい学生達だなと思いました。

昔の自分を思い出させてくれる質問でした

改めて今の自分の立ち位置を確認させられた気がしました

銚子を元気に！一緒にがんばりましょう！

失敗を恐れず、夢や目標に向かって様々なことにチャレンジをしてください！

非常に有意義な時間でした

ありがとうございました

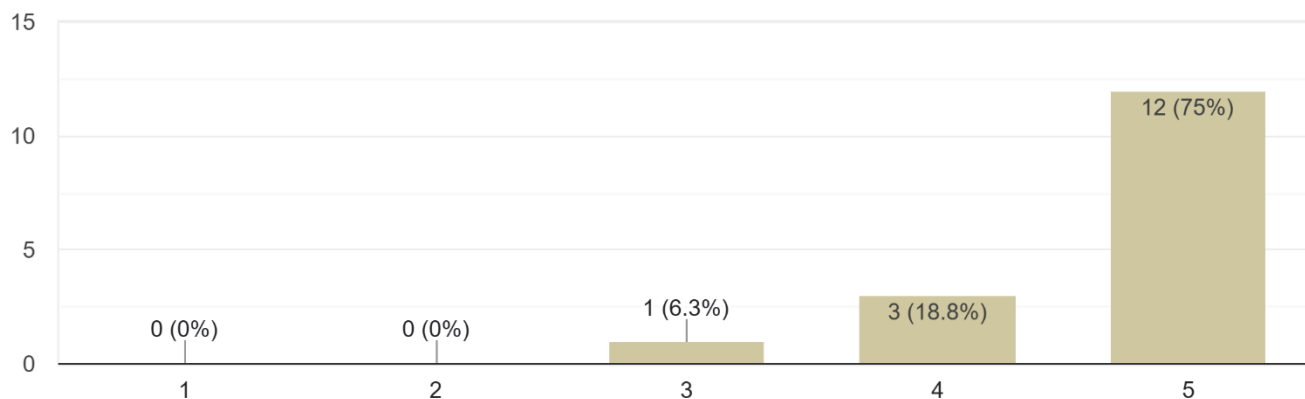
階段を一つ登った立派な姿に感動しました。

やりたいことを思い切りやりながら、たくさんの「学び」と「成長」があることを願っています。

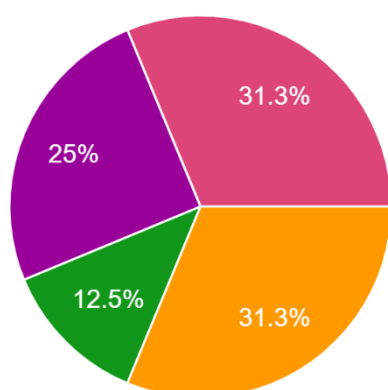
地元の良さは、一度外に出てみなければ分からないものだとは思っています。だからこそ、最初から銚子だけにこだわる必要はありません。進路や生き方の選択肢の一つとして「銚子」があれば、それで十分だと思っています。

若い熱意を感じました。

Q：地域における次世代に向けたキャリア教育への関心度を5段階でお聞かせください。



上記の質問で3以上を選んだ方にうかがいます。その理由としてもっとも近いものをひとつ選択してください。



▶選択肢（右上の項目と同じ順）

採用、募集につながる可能性があるから。__0

業界全体のイメージアップにつながると思われるから。__0

地域の人々、次世代育成に関わることが役割だと思うから。__31.3%
若者から刺激や新しい発想などを得られる有意義な機会だと思うから。__0

分野や世代を超えたつながりが地域に必要なと思うから。__25%
次世代に多様な働き方を伝えたいから。__0

次世代を応援したいから。__31.3%

多世代での交流は楽しく、意義もあると思うから。__12.5%

▶ その他、感想など

- ・準備など大変ですが、若い人たちへの応援が必要と思います。本日はありがとうございます。
- ・素晴らしい企画に参加させていただき、ありがとうございました。生徒たちの真剣な姿勢にとっても刺激を受けました。生徒たちの成長をより可視化できるようなものがあれば良いかと思った次第です。とはいえ現時点で具体的なアイデアがあるわけではないのですが、「事前・事後での意識変化のアンケート」や今後作られる、「地域人財データベース」への各学校でのアクセス件数などの見える化して情報発信など少しずつ成果を見せていくことかと個人的には思っております。今後の「DELKUI」のますますの発展を応援しております。
- ・これからも、たくさんの人が色々なテーマで集まると良いなと思います。日常の中での非日常が体験出来ました。お声かけいただきありがとうございました。
- ・本事業の認知度を上げる工夫が必要かと思います。高校生が熱心に取り組んでいるので、各方面から幅広い協力、支援を得る努力が必要だと思います。
- ・若い世代が市内の多様な大人、事業者と交流できる銚子円卓会議の事業を是非、継続して下さい。これからも、銚子円卓会議の事業を応援させていただきます。
- ・今の高校生の気持ちを大切にしてほしいと思います。 本当に一生けん命考えての質問でした。
- ・男性の参加を求めたい。 若者が多くの人生経験者と話す機会は多く持った方がよい。
- ・引き続き実施いただきたい。 応援いたしました。

【DAY2】7月30日（木） 高校生が考える DELKUI データベースグループ討議・発表

タイムスケジュール

時間	内容
13:00～13:20	開会・趣旨説明
13:20～13:40	アイスブレイク
13:40～14:10	ミニ講座「ワクワクをつくるのは誰か？」
14:10～14:20	休憩
14:20～16:00	グループディスカッション テーマ：DELKUI データベース活用・展開を提案しよう！
16:00～16:45	参加高校生による発表
16:45～17:00	撤収

<講座に関して>

「ワクワクをつくるのは誰か？」

=価値の最大化：目の前の出来事を楽しくするのは誰か？

講師：庄司 幸平（Shoji Kohei）氏

大学卒業後、大手国内メーカーに入社。

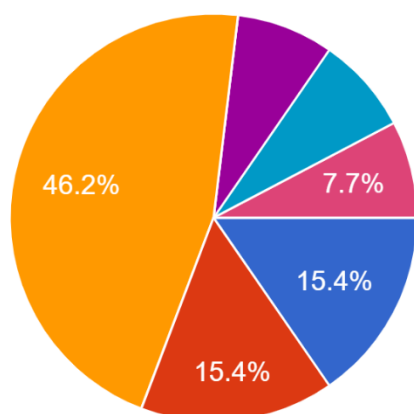
主に人事制度の運用・改訂に従事。2016 年、株式会社シェイクに入社。コンサルタントとして、ソリューション企画・提案に携わる。2018 年、株式会社 NEWONE に参画。大手企業から中小企業まで、人事・組織戦略コンサルティングに従事。キャリア系のセミナー、講演に数多く登壇。

銚子円卓会議プロボノメンバー

4. 高校生参加者アンケート結果より

13 名回答／17 名

Q：本プロジェクトへの参加の経緯を教えてください。

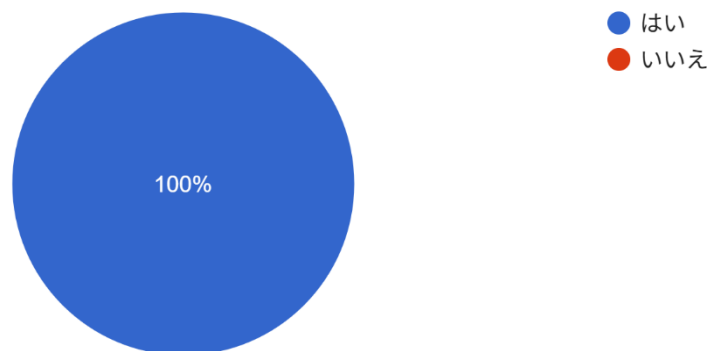


- 教室掲示のポスターを見て興味をもった
- 友人に誘われた
- 先生から紹介された
- SNSでみた
- 生徒会活動の一環として
- 部活
- 1 期生経験して、また参加したいと思ったから。

Q：もっとも印象に残ったことを教えてください。

- ・インタビューでもらった大人の方々からの言葉やアドバイス
- ・普段話さないような人たちと話せたこと
- ・自分に思ったよりクリエイティビティーがあったこと
- ・大人の人へのインタビュー
- ・自分の思い込みのせいで見逃しているものはとても大きく多いということ。世の中には色々な考えを持ち自らが何かをより良くしようと積極的に動いている大人の方々がいるということ、です。また、「わんちゃんのために」市議会議員としてできることを、と取り組む方がいること、全員が全員最初から市議会議員になろうと思っていた訳ではなく、自分が実現したいことに向けて活動しようと何かをきっかけに議員となり活動している方々もいるということがとても印象的でした。
- ・腹を括ると、気分が良くなる。
- ・政治に関わっている方のインタビュー
- ・ポスターでしか見たことがない人と話せて、とても嬉しかった。議会員の方が、「失敗はよくある」と話していて、もっと厳格な世界だと思っていたので少し驚いた。
- ・様々な立場の人のお話を聞けたこと
- ・大人の話の聞けたこと
- ・生徒が発表して、それを大人だけじゃなくて、他の生徒からも、フィードバックのような時間があつたこと 褒めたりアドバイスしたり、いいなって思いました
- ・インタビューをしたこと

Q：今回参加する前と後で、何か変化したことはありますか？

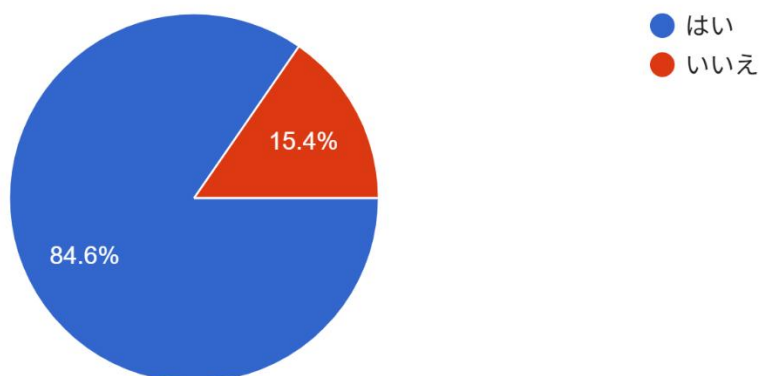


「はい」の方は、何が、どのように変わったかぜひ聞かせてください。

「いいえ」の方は、その理由について教えていただけますか？

- ・自分の将来に対する不安が減った。
- ・銚子への関心が深まった。
- ・政治について興味が出た
- ・人とのつながりをだいにしようと思った。また、このような創造性のある、主体性を要するイベントにできるだけたくさん参加することで将来の仕事に活かしていきたいと感じた。
- ・得意を伸ばせた
- ・知らなかったことをしれた
- ・私たちの生活は様々な人々が積極的に地域をより良くしようと努力してくださるおかげで成り立っているのだとわかり、もっと自分も興味を持って関わっていこうと思いました。
- ・自分も町のために、何か行動を起こしてみようと思った。
- ・銚子をもっと広めたいと思ったし、OSUSOWAKE をいつかしてみたいと思いました。
- ・今回の講習で色々な職業の方とお話をして、勝手に知った気になっていたことが沢山あったと知れたし、失敗を恐れずに挑戦している姿を見て、自分ももっと頑張りたいと思えた。
- ・引っ込み思案で前に一歩進むことができなかった性格がこのイベントに参加しお話を聞いたり意見交換をしたりすることで自分の意見やアイデアを出しやすくなった。より地域の取り組みや前向きな活動に参加したいと思った。
- ・実際に市議会議員の方にインタビューをさせて頂いて、テレビで見た少しマイナスなイメージが無くなりどなたも銚子のために全力を尽くしてくださっている方々なんだと言うふうに思いました。
- ・発表や話し合いが苦手だったけど、少しできるようになった
- ・人と話すの、人と繋がること、やっぱり楽しいなって、改めて実感することができた
- ・銚子についていろいろな知識を得られて、人との関わり大切について深く知ることができたから

Q：今回参加する前と後で、「銚子市」の印象、捉え方は変わりましたか？



「はい」の方は、どのように変わったか聞かせてください。

・銚子市で働く方々についてあまり考えたことがなかったけど、銚子をより良い町にしていきたいというたくさんの職業人の思いが集まって、銚子市が成り立っているんだと感じた。

・ちょーぴーの曲など銚子ならではのことが沢山あるんだと感じた

人口減少していて、財政面でも豊かでなく、正直マイナスなイメージがあったが、そこから脱却するためにこんなに銚子を好きでよくしようと思っている人がいることに気づいて、まだまだここからなんだなと思ったし、銚子の良さを知った。

・市長への印象

・「DELKUI」や「OSUSOWAKE」など、様々な画期的な取り組みをしていることを知り、またその内外で様々な思いを持って活動している大人の方々がいることがわかり、今後の活動や結果に興味を持ちました。

・今までは、都会の方が楽しそうと思っていたけど、今回の講習に来てくれた人達が私達のような若い世代のために銚子を良くしようと一生懸命働きかけてくれていて、こんな素敵な大人たちがいる銚子はいい所だなと思った。

・様々な人が進んで銚子をよくするための活動をしてくださっていることを知り、私もワクワクした。

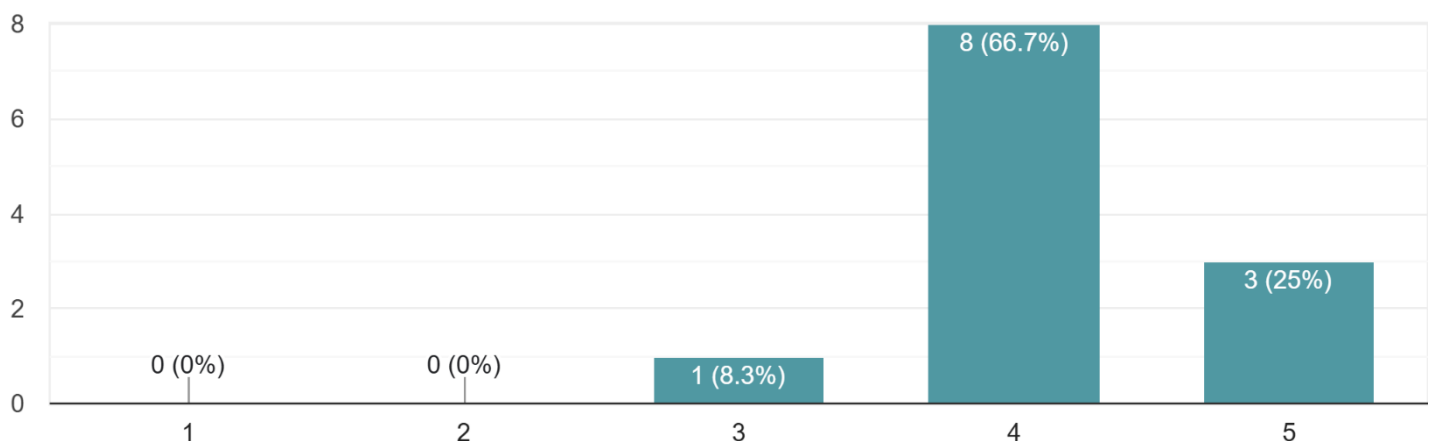
・銚子に住んでいるみんなが銚子のことが大好きでより良くしたいという考え方がありとても素敵だと思いました。

・色々な人が携わっていると思ったこと

・一部ではあるけど。今まで遠い存在でイメージが湧いたことがなかった市議会議員さんや市長さん、警務課の係長さんなど、と話せたことで、銚子を動かしている人たちを、知れた

・まだ知らなかった銚子を知ることができて、すばらしい町だなと感じた

Q：銚子市及び近隣での暮らしや仕事への関心度を5段階（1低いー5高い）教えてください。



上記の理由を聞かせてください。

・今の自分にできることは少ないけど、人口減少や少子化など、考えるべき問題はたくさんあると思うから。

・銚子以外の地域や県での暮らしや仕事にも興味があるから

・静かで人が温かくて、近隣住民との付き合いを大切にされていて、農家さんは作った野菜を持ってきてくれたりするから。

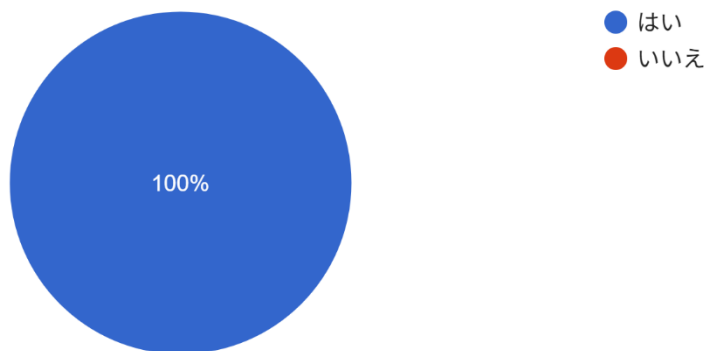
・住んでいる訳では無いけど高校が銚子にあるし買い物等で利用するし、将来関わるかもしれないから

・自分が住んでいる市ではどのような取り組みが行われているのか、それは実際どのような結果が出ているのか、

どんな制度がありそれについての市民の反応はどうか、など銚子市の取り組みを知った上で自分の市と比べてみたいと思いました。

- ・生まれ育った場所が銚子で、ずっと銚子に関わっているから。
- ・銚子で親が働いているので他の働いている方達の生活を知りたいと思ったからです。
- ・将来についてはまだ何も考えられていないけど、銚子のために頑張ってくれている大人達を見て、将来の選択肢の一つとしてとても素敵なお仕事だなと思った。自分も銚子のことが大好きだから、なにか役に立つことをしていきたいと思った。
- ・今回お話を聞いて興味を持ったから。
- ・私は将来なりたいものが決まっているからです。
- ・今回の円卓会議をやって、色々知れたから
- ・デルクイに参加して、どんどんと増している
- ・高校生で、自分の将来について考えるようになってどういう仕事があるのか調べるようになったから

Q：本プロジェクトへの参加は、自分自身の学びになりましたか？



上記の理由を聞かせてください。

- ・大人との会話の仕方や会話の盛り上げ方のコツを掴めたと思う。また、インタビューで頂いた貴重な情報や言葉をこれからの人生にいかしていきたいと思った。
- ・普段関わらない方々へのインタビューや発表の仕方など様々なことを学べた
- ・高校は特に、同調圧力を感じるが、こんなに自分の好きなように話していいんだと思ったし、自分の意見があることがこれからすごく必要とされ、それを表現する力こそが求められるんだと感じ、もっと自分らしさを伸ばしていきたいと思ったから。
- ・色々な人の経験を元にした話を聞くことができたので知識を増やすことができた
- ・今まで自分が興味がない、面白くない、と思い込んで関わってこなかった「政治」や「地域」の取り組みやそこに携わる人々の考えに、「DELKUI」というプロジェクトを通して初めて触れ、自分の見逃していたものがとても大きく面白いものだったと知りました。勝手なイメージや偏見で物事を決めつけず、主体的に触れてみて、実際に関わる中で感じることを大切にして生きていきたいと思いました。
- ・色々な視点から物事を見て、考えることができるようになったから。
- ・銚子で行っている活動を知れたからです。
- ・人生で大切なことを沢山教えて貰えたし、将来についてとても深く考えられた。今回来てくれた人たちのような、誰かのために全力で動ける大人になりたいと思った。

・大学のカリキュラムに地域連携というものがありその実践的な前段階の練習にもなったし、もっと身近なところから人々の役に立ちたいと感じたから。また、自分の考え方に様々な人の考えがプラスされて成長できたと思ったから。

・最初からやりたくない、嫌いというマイナスなイメージを持ちがちでしたがそれが勿体ないことだと教えて頂きこれからは前向きに捉えていこうと思ったからです。

・話し合いをしたから。

・銚子の人と関わる機会は限られているので、銚子を知るきっかけになったり、講話やディスカッションで得た知識や経験は将来に役立つから

Q：本事業がよりよく継続するためのアイデアがありましたらぜひ教えてください。

・毎回運営側が決めるだけでなく、参加者から「話したいテーマ」を募集する。

→自分が興味のある内容なら、より積極的に意見を出しやすくなると思います。

・学校と連携した企画を行ったりする。

→若い世代の新しい視点が増えることで、会議がより活発になると思います。

・普段やらないことが沢山できてとても楽しかったです！！

・できるだけ会ごとに違う人を招くことができたならより多くの銚子の魅力を知る人に会えてより豊かな人材データベースができると思う。連続で参加する人にとっては毎年やる内容が少しでも違うほうが本人の成長と、新鮮さにつながるんじゃないかなと思った。

・とても楽しかったから逆に大きく変えないでみるとかどうでしょうか？

・楽しかったです！！2日間ありがとうございました！

・今までの取り組みの内容や成果など、もっと学生や市民に知ってもらえる機会が増えればいいな、思いました。

・学校連携の取り組み等もできたらもっとたくさんの人が参加できるかな、思いました。

・家族や先生以外の大人とここまで深くお話する機会はなかなかないので、とても貴重な経験になりました。インタビューしたり、メンバーと話し合ったり、自分の考えを発表したり、慣れないことばかりでしたが、頑張って取り組むことができて、様々な思いや考えを持つ方々とお話できて、参加してとても良かったと心の底から思いました！2日間本当にありがとうございました！

・2日間ありがとうございました！！

・OSUSOWAKEの仕組みを初めて知って良い取り組みだなと思ったのもっと色々な人に広めても良いと思います

・DELKUIはお話を聞くだけでなく、アイスブレイクや、脳のやる気について知れたり、みんなで発表したりなど、楽しいことが沢山あったので、また来年も参加させていただきたいです！

・子どもたちが楽しめる事業がさらに増えると良いのではないかなと考えました。

・今回参加できて本当に楽しかったし、自分のこれからは活かせる大きな機会になったと感じました。どの人も本当に熱意があつてためになるお話をしてくださって本当にありがとうございました。

・特にありません

・貴重な経験をさせていただきました。本当にありがとうございました。

Q：来年度3期生へのメッセージをお願いします！

・この活動では、さまざまな立場や世代の方々と対話することで、新しい考え方や地域の魅力を知ることができる貴重な経験が待っています。

・最初は緊張することもあるかもしれませんが、自分の考えを素直に伝え、相手の話に耳を傾けることで、多く

の学びや新しいつながりが生まれるはずです。

・ぜひ一人ひとりの視点やアイデアを大切にしながら、仲間と協力して、銚子の未来について楽しく考えてください。

・皆さんの挑戦が、地域をさらに元気にする大きな力になることを願っています。頑張ってください！

・考えることはとても大変だけれど、デルクイが終わったあとの銚子への理解がとても深まって充実した2日間が送れます！

・どんな言葉でも自分の気持ちを伝えられることがすごく素敵なことだと思います！みんなの言葉が集まったらもっと素敵になるからなんでも言っちゃえ！

・不安が沢山あるかもしれませんが、でも！！！絶対楽しいですぼくが保証します！

・話をしてくれる方々の言葉や思いを大事に受け止めることは、今後社会を生きていくなかでの引き出しを増やすことに繋がると思います！なかなか出来ないこの経験をしっかり堪能してほしいと思います！

・緊張することなく、リラックスしてやって欲しい

・大人の方達は優しいのでつまらないことでも笑ってくれると思います。

・インタビューは目を見て話したほうが良いです。

・事前に誰が何の質問をするか決めておいた方がスムーズに進めることができます。

・自分も参加する予定なので、一緒に頑張っていけたら嬉しいです。

・緊張せずに様々な人との会話に耳を傾けて、自分の個性溢れるアイデアを出して欲しいです！期待しています！

・最初は何をするのか具体的にわからずにとっても不安や緊張があると思いますが、スタッフの皆さんやインタビューを受けてくださる皆さんがとても優しいのでリラックスして楽しんで欲しいです！！

・人の前に立つのが苦手な人でもやってみれば楽しくなります！

・参加した行動力が、みんなはなまる

せっかく来たなら、一つでも多くのことを、自分のものにしてほしいなっています！

がんばってください！！

・不安や緊張もあると思いますが失敗を恐れずに前向きに頑張ってください！

2026 DELKUI high school

分析報告

－「出会う」から「見方が変わる」、そして「自分も動く」へ－

1. 総括

2026 年度の「DELKUI high school」は、高校生 17 名と地域人財 21 名が参加し、2 日間にわたり、地域で活躍する多様な大人とのキャリア対話と、「DELKUI 地域人財データベース」の活用・展開についてのグループ討議を実施した。

アンケート結果からは、本事業が単なる職業理解や進路学習にとどまらず、

- ・ 多様な大人との直接的な対話によるキャリア選択肢の拡大
- ・ 自分自身の考えや強みへの気づき
- ・ 「政治」「地域」「まちづくり」等に対する固定観念の変化
- ・ 人と話し、考え、発表することへの自己効力感の向上
- ・ 「自分も地域のために何かしたい」という主体的な意識の芽生え
- ・ 銚子を「暮らす場所」から「自分も関わることのできる地域」へ捉え直す地域認識の変化

につながっていることが確認できる。

特に注目されるのは、2025 年度に確認された「自己理解の深化」「自己効力感の向上」「多世代交流」といった効果が、2026 年度にはさらに一歩進み、「自分の見方が変わった」だけでなく、「自分も行動してみたい」という意識にまで発展している点である。

また、地域人財側からも、「高校生の質問によって自分自身を振り返ることができた」「初心を思い出した」「若い世代から刺激を受けた」といった声が多数寄せられている。

このことから、本事業は高校生への一方向的なキャリア教育ではなく、高校生と地域人財が互いに学び合う「地域共育」の場として機能していると評価できる。

さらに、2 日目には高校生自身が「DELKUI データベースの活用・展開」を考えることで、参加者自身が地域人財データベースの「利用者」であるだけでなく、その未来を考える「共創者」へと役割を広げている。

2026 年度は、DELKUI が「大人と高校生をつなぐプログラム」から、地域の人と人をつなぎ、若者自身が地域の未来を考えるための基盤へと発展する転換点となったと考えられる。

2. 教育的効果の分析

① 多様な大人との出会いが、進路や人生の「選択肢」を広げている

高校生の回答では、

「色々な職業の方とお話をして、勝手に知った気になっていたことが沢山あった」

「世の中には色々な考えを持ち、自らが何かをより良くしようと積極的に動いている大人の方々がいることを知った」

「将来の選択肢の一つとしてとても素敵なお仕事だと思った」

といった記述が見られた。

これは、DELKUI の重要な教育的価値の一つである。

高校生は、学校・家庭・SNS・メディアなど、限られた情報から「仕事」「大人」「地域」「政治」についてイメージを形成しやすい。

しかし、実際に本人と対話することで、

「知っているつもりだったもの」と「実際に出会ったもの」の間にあるギャップに気づいている。

特に政治に関わる人へのインタビューについて、

「ポスターでしか見たことがない人と話せて、とても嬉しかった」

「議員の方が、『失敗はよくある』と話していて、もっと厳格な世界だと思っていたので少し驚いた」

「テレビで見た少しマイナスなイメージが無くなり、どなたも銚子のために全力を尽くしてくださっている方々なんだなと思った」

という声があった。

これは、単なる職業理解を超えた社会理解の学習である。

DELKUI は、多様な大人との対話を通じて、高校生が「社会を見るための解像度」を高める機会になっている。

② 「思い込みを外す」経験が、主体的な学びにつながっている

2026 年度の回答で特に重要なのが、「思い込み」「決めつけ」「偏見」への気づきである。

ある参加者は、

「自分の思い込みのせいで見逃しているものはとても大きく多い」と振り返っている。

また、

「勝手なイメージや偏見で物事を決めつけず、主体的に触れてみて、実際に関わる中で感じることを大切にして生きていきたい」との回答もあった。

これは DELKUI が育てている力を考える上で非常に重要である。

DELKUI で起きているのは、「大人から正しい答えを教えてもらう」ことではない。

知らない→思い込みで捉えている→実際に人と出会う→自分の認識との違いに気づく→問い直す→自分なりに考える という学習プロセスである。

この意味で DELKUI は、知識獲得型のキャリア教育ではなく、「問いを持って社会を見る力」を育てるキャリア教育として評価できる。

③ 自己効力感・自己表現力の向上

今回の回答では、「話すこと」「発表すること」「自分の意見を出すこと」に関する変化が複数確認された。

例えば、

「引っ込み思案で前に一步進むことができなかった性格が、このイベントに参加し、お話を聞いたり意見交換をしたりすることで、自分の意見やアイデアを出しやすくなった」

「発表や話し合いが苦手だったけど、少しできるようになった」

「高校では特に同調圧力を感じるが、こんなに自分の好きなように話していいんだと思った」

といった回答である。

これは、DELKUI の「対話」という方法そのものが教育効果を持っていることを示している。

特に注目したいのは、

「自分の意見を持つこと」から「自分の意見を表現してよいと思えること」への変化である。

非認知能力の観点から見ると、これは自己効力感、主体性、コミュニケーション、社会性など複数の要素にまたがる成果である。

3. 地域への認識・関与意識の変化

① 「銚子＝課題のあるまち」から「銚子＝動いている人がいるまち」へ

今回のアンケートで最も大きな変化の一つが、銚子市に対する認識の変化である。

ある高校生は、参加前の銚子について、

「人口減少していて、財政面でも豊かでなく、正直マイナスなイメージがあった」

とした上で、

「そこから脱却するためにこんなに銚子を好きでよくしようと思っている人がいることに気づいて、まだまだここからなんだなと思った」と回答している。

これは非常に重要な変化である。

地域課題を知ることだけでは、必ずしも地域への愛着や参加意識は生まれない。

しかし DELKUI では、課題を語るだけではなく、

「その課題に対して実際に動いている人」と出会う。

その結果、

「銚子には課題がある」

という認識が、

「銚子には課題がある。しかし、その課題に向き合い、まちを良くしようとしている人がいる」という認識へ変化している。

さらに、

「自分も町のために、何か行動を起こしてみようと思った」

という回答につながっている。

ここに、DELKUI の地域教育としての大きな可能性がある。

② 「地域の一員」から「地域の担い手」への意識

高校生からは、

- 「もっと自分も興味を持って関わっていこうと思った」
- 「自分も町のために、何か行動を起こしてみようと思った」
- 「もっと地域の取り組みや前向きな活動に参加したい」
- 「銚子のために何か役に立つことをしていきたい」

という声が寄せられた。

これは、単なる地域愛着とは異なる。

- 「銚子が好き」という感情から、
- 「自分も銚子に関わることができる」

という当事者意識への移行が見られるからである。

今後の DELKUI においては、この変化を重要な成果指標として位置づけることが望ましい。

4. 地域人財側への効果

① 高校生からの問いが、大人自身の自己理解を促している

地域人財から寄せられたメッセージには、

- 「初心を思い出す良い経験となった」
- 「質問を受けている中で自分自身に対する思わぬ気づきを頂いた」
- 「昔の自分を思い出させてくれる質問だった」
- 「改めて今の自分の立ち位置を確認させられた」
- 「私も、もっと趣味や交流を大事にしたいと思う」

など、大人自身の内省に関する記述が複数見られた。

つまり、DELKUI は、

高校生が大人から学ぶ場であると同時に、大人が高校生から学ぶ場になっている。

これは 2025 年度にも確認された「相互学習」の効果が、2026 年度にはより明確に表れたものと考えられる。

② 「次世代育成」を地域の共通課題として認識

地域人財アンケートでは、キャリア教育への関心理由として、

- ・ 地域の大人は、次世代育成に関わることが役割だと思う
- ・ 分野や世代を超えたつながりが地域に必要
- ・ 次世代を応援したい
- ・ 多世代での交流は楽しく、意義がある

といった回答が得られた。

ここから、参加者が DELKUI を「高校生のための事業」としてではなく、地域の大人が次世代と関わるための仕組みとして捉え始めていることが分かる。

これは事業の持続可能性を考える上でも重要である。

5. DELKUI データベースへの示唆

2026 年度は、従来の「人財に出会う」だけでなく、高校生自身が「その人財情報をどう活用するか」を考える段階へ進んだ。

高校生からは、

「できるだけ会ごとに違う人を招くことで、より多くの銚子の魅力を知る人に出会える」

「毎年やる内容が少しでも違うほうが本人の成長と新鮮さにつながる」

「学校と連携した企画を行う」

「参加者から話したいテーマを募集する」

「今までの取り組みの内容や成果をもっと学生や市民に知ってもらおう」

といった提案が出されている。

これは、データベースを単なる「人の一覧」として捉えていない点が重要である。

高校生は、

誰と出会うか

→ 何を知るか

→ どう活用するか

→ 次の人につなげるか

という循環を意識し始めている。

今後の DELKUI データベースは、「地域で活躍する人を検索するためのデータベース」から、

高校生と地域人財の新しい出会いを生み出す地域のキャリア・プラットフォームへと発展させることが期待される。

6. 2025 年度からの発展

2025 年度と 2026 年度を比較すると、DELKUI の成果は次のように発展している。

観点	2025 年度	2026 年度
自己理解	大人の経験を自分の進路と照らし合わせる	自分の強み・考え方・性格への具体的な気づき
自己効力感	大人から肯定的評価を得る	「自分も話せる・発表できる・動ける」へ
キャリア教育	多様な職業・生き方を知る	固定観念を問い直し、選択肢を広げる
地域理解	地域人財を知る	「地域を動かしている人」を実感する
地域への意識	地域への関心が高まる	「自分も地域のために動きたい」へ
多世代交流	大人と高校生の交流	高校生と大人双方の相互学習
DB	人財データベースの構築	DB の活用・展開を高校生自身が考える
主体性	インタビューへの参加	企画・対話・発表・DB 活用提案まで拡大

この変化から、DELKUI は、

「出会い」→「気づき」→「自己理解」→「地域理解」→「主体的行動」

という学習モデルを形成しつつあると評価できる。

7. 今後の課題

① 「参加して終わり」にしない仕組み

今回のアンケートでは、「もっと地域に関わりたい」「行動してみたい」という意識が多数見られた。

今後は、この意識を具体的な行動につなげる仕組みが重要である。

例えば、

- DELKUI 卒業生・参加者による地域活動
- 地域人財との継続的な交流
- 高校生による地域プロジェクト
- DELKUI データベースを活用した探究活動
- 学校の探究学習との接続
- 次年度参加者へのメンター・サポーターとしての参加

などが考えられる。

「DELKUI で何を学んだか」だけでなく、「DELKUI の後、何を始めたか」を追跡することで、事業成果をより明確に示すことができる。

② 学校との連携強化

高校生からも地域人財側からも、学校との連携を求める声が出ている。

今後は、

「夏休みの特別プログラム」

にとどまらず、

学校の探究学習

× DELKUI データベース

× 地域人財

× 地域課題

という接続をつくることで、DELKUI の教育的価値をさらに高めることができる。

特に、DELKUI high school で得た人財情報を、DELKUI junior や中学校・高校の探究学習へ循環させることは、地域全体のキャリア教育基盤づくりにつながる。

③ 成果の「見える化」

地域人財側から、

「生徒たちの成長をより可視化できるものがあればよい」との提案があった。

今後は、例えば、

DELKUI Before / After として、

- 地域への関心
- 将来への自己効力感
- 多様な進路への理解
- 大人との対話への自信

- 自分の意見を表現する力
- 地域への参加意欲
- 銚子で暮らす・働くことへの関心

などを事前・事後で測定することが考えられる。

また、

- DELKUI データベース登録人数
- 登録人材の分野・世代・属性
- 学校・教育現場での活用件数
- データベースを通じた新たな出会い
- DELKUI 卒業生の地域活動参加

などを継続的に記録することで、DELKUI の成果を「物語」と「データ」の両面から発信できる。

8. 2026 年度から見える DELKUI の独自性

今回の結果から、DELKUI の価値は「高校生に地域の仕事を紹介すること」だけではない。

むしろ、その本質は、

「人に会うことで、自分の見方が変わる。」ことにある。

大人に出会う。

知らなかった仕事を知る。

知らなかった生き方を知る。

自分の思い込みに気づく。

自分の考えを話してみる。

相手の考えを聞く。

地域を見る目が変わる。

そして、

「自分も何かやってみよう」と思う。

この一連の変化こそが、DELKUI の教育的価値である。

したがって DELKUI は、

「キャリア教育」×「地域教育」×「対話」×「地域人材データベース」
を組み合わせた、独自の地域共育モデルとして位置づけることができる。

9. 今後の展開に向けて

今後は、DELKUI を単発の高校生向けイベントとしてではなく、地域全体の人財循環を生み出す仕組みとして発展させることが望ましい。

そのためには、

- STEP 1 出会う 高校生が多様な地域人財と出会う。
 - STEP 2 知る 仕事・人生・地域について知る。
 - STEP 3 問い直す 自分の思い込みや価値観を問い直す。
 - STEP 4 つながる 高校生・大人・学校・地域をつなぐ。
 - STEP 5 動く 高校生自身が地域で小さな行動を起こす。
 - STEP 6 次へつなぐ その経験や人とのつながりを、次の世代へ渡す。
- という循環を形成することが重要である。

この循環の中核に「DELKUI 地域人財データベース」を置くことで、
人が人を知り、
人が地域を知り、
地域が次の人を育てる。
という地域人財の循環が生まれる可能性がある。

10. まとめ

2026 DELKUI high school では、2025 年度に確認された「自己理解」「自己効力感」「多世代交流」「地域人財の教材化」という成果がさらに発展し、

- ① 固定観念を問い直す力
 - ② 多様な人と対話する力
 - ③ 自分の考えを表現する力
 - ④ 地域を自分ごととして捉える力
 - ⑤ 自分も地域に関わろうとする主体性
- へと広がっていることが確認された。

また、地域人財側にも、

「高校生を育てる」だけでなく、「高校生との対話によって自分自身も学び直す」という変化が生まれている。

このことから、DELKUI high school は、単なる高校生向けキャリア教育事業ではなく、
若者と大人が互いに学び、地域の未来を共に考える「地域共育」の実践として評価できる。

今後は、今回生まれた「もっと地域に関わりたい」「自分も何かやってみたい」という高校生の意欲を、具体的な
地域活動や探究活動へつなげることが重要である。

そして、その経験を再び DELKUI データベースへ蓄積し、次の高校生へつないでいく。

DELKUI が目指すべき次の段階は、

「高校生に地域を知ってもらうこと」から、

「高校生自身が地域の未来をつくる側へ移行すること」である。

2026 年度の DELKUI high school は、その転換点となる重要な一歩となった。

【お問合せ】

一般財団法人 銚子円卓会議

URL: <https://choshientaku.com/>

メール: info@choshientaku.com

〒288-0041 千葉県銚子市中央町 12-13 TEL:0479-25-8870

DELKUI ユニット（理事会内ユニット）

坐古 拓也 （一財） 銚子円卓会議 理事 丸徳商事株式会社・銚子葡萄酒醸造所 代表取締役社長

伊藤 剛康 （一財） 銚子円卓会議 理事 銚子信用金庫 地域サポート部 部長

岡田 幸太郎 （一財） 銚子円卓会議 理事 銚子市社会教育委員長

松岡 明夫 （一財） 銚子円卓会議 代表理事 銚子信用金庫 前理事長

協働事務局

西田 美樹 1級キャリアコンサルタント技能士、国家資格キャリアコンサルタント